

令和2年度 江戸川区立南葛西小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	○進んで学び くふうする子 ○思いやりのある子 ○健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○保護者・地域とともに歩む学校～「共育・協働・安心」の学校づくり～ ○「生きる力(知・徳・体の力)」を身に付けた子どもを目指して ○組織的な教育活動を推進し学校の教育力を高めつつ、自らの向上を図る教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 全学年で算数習熟度別指導を実施し個に応じた指導を推進。教科分担制により学年の担任全員で学年の児童を指導する体制整備。外国語活動を専科教員が指導することでALTを効果的に活用した授業を実施。40周年関連事業として南小音頭復活、校歴室新設など学校や地域への誇りを高めた。生活指導:あいさつ・あつまり・あしまつの「3つのあ」の中でも特に朝会・集会時の集合と話の聞き方、くつ箱の整え方が児童に定着。調べる学習コンクールに全学年が出品。 <課題> 校内研究で算数科の授業改善、マッスルタイム(計算タイム)を導入、放課後補習教室(区の事業)開講、児童の学力向上を目指す。ICTアシスタント、学校司書による授業支援を全学級で活用。読書科の年間指導計画を見直し、探究的な学習を推進する。学校図書館の整備と教科指導での活用を促進する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携プログラムを踏まえた学習指導の実施 保護者へのPR	全教員が理解し実施 全保護者への周知	C	C	コロナ禍につき、教員間の出前授業の実施はできなかったが「小中連携構想」に基づいて各校それぞれで小中連携の意識を考えて実施した。	B	今後もより小中連携をしっかり意識して、より深くすすめていただきたい。	感染症対策で小中交流なしの構想を考える。小中連携プログラムを実施する。
	共育・協働・安全の学校づくり	地域資源(人材・施設・環境)を活用した学習の推進	体験的な活動 グリーンプラン推進校	保護者肯定的評価80%	B	B	富士公園への植物の植え替え活動を行った。児童には地域の代表としての意識も身に付いた。	A	富士公園の植え替え活動だけでもできてよかった。植栽以外にも、何か拡大できないか検討していただきたい。	活動可能な限り、前年度の内容で交渉や活動を続けていく。
		HP、連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信	配布文書をPDF化しHPアップ 学校日記 2回/週 更新 体育・道徳便りの発行 (HP)	実施率100% 保護者肯定的評価90%	A	A	学年だより等の配布文章や学校日記をHPにアップし、保護者・地域へ情報配信することができた。また、体育便りや道徳便りも発行できた。	A	HPから学校の情報が入手しやすくなったと思う。今後ともお願いしたい。	引き続き、HPを活用し保護者・地域へ情報を配信していく。
		危機管理マニュアル、コロナ対応マニュアルに基づく全教職員の協力体制 迅速・確実・丁寧な対応	毎月の避難訓練・安全点検の実施 コロナ感染防止の確実な対応 トラブルの即日解決	実施率100% 保護者肯定的評価80%	B	A	新しい生活様式や手洗いや手指の消毒について児童に指導し、学校で行動できた。生活トラブルも担任を中心に学校全体で対応できた。	A	適切な対応がなされていたと思う。基準がどんどん変わるので、常にリニューアルして取り組んでほしい。	引き続き、児童への指導を続けていき、トラブルの未然防止、早期発見・対応を続けていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	教員向けICT研修年2回 各学年授業支援 月2回の学校訪問	実施率100% 保護者肯定的評価80% 児童肯定的評価 80%	B	B	ICT研修を2回行い、アシスタント支援も実施した。タブレット、デジタル教科書などICTを活用した授業を行った。授業力の向上が課題である。	B	ICT機器はこれからどんどん使用して、分かりやすい授業を行うようにしてもらいたい。	ギガスクール構想のタブレットの活用法を共有し合う時間を確保する。
		校内研修の活性化(校内研究・若手研修・伝達研修など)	分かる・できる授業 主体的・対話的で深い学びの授業の実現	教員・児童意識調査90% 保護者肯定的評価85%	B	B	算数について校内研究を行った。若手研修は課題や改善策について話し合った。コロナ禍で対話的な学習を行うことが難しく課題が残った。	B	教員の指導力を高められるよう、引き続き研修をしっかりと行ってほしい。	新型コロナウイルスの感染予防をし、児童が対話的な学びを行えるような取り組みを行う。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 エンカレッジルームを活用した支援の充実・校内体制づくり	特別支援教育研修会年3回、 校内判定委員会の随時開催 校内委員会 月1回以上	実施率100% 保護者肯定的評価80%	A	A	校内で児童の実態を把握し、教職員全員で支援体制を組むことができた。特別支援が必要で保護者が希望する児童については、早く支援が受けられるように管理職も含め対応にあたった。	B	今後も引き続き、支援を必要としている児童が適切な支援を受けられるようにお願いしたい。	必要性に応じて臨機応変な対応ができるよう、今後も校内委員会等を活用し対応していく。
	ユニバーサルデザインの視点での授業改善と環境整備	教室環境の整備 教材・教具の工夫(提示物)	教員意識調査 80% 児童意識調査 80%	B	B	学習の教具などを全校で統一し、学習の進め方を学年間で同じにして、学習環境を整えるようにした。教室の環境整備に取り組んでいる。	B	いつまでどの程度改善されるのか、目標期間を設定するよと思う。	前面黒板を整え、見やすくするなど、学年でさらに改善していく。	
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習(ベシックドリル活用) 放課後補習教室の導入、 漢字コンテストの実施、 学習規律の徹底	・実施率100% ・ベシック診断・Aと比較しBの定着率20%アップ ・児童肯定的評価80%	A	B	ベシックドリルを活用した補習、放課後補習教室の導入、漢字コンテストは行うことができた。学習規律の徹底は、児童の肯定的評価が80%を超え、昨年度より割合が上がった。しかし、ベシック診断AからBで20%アップはできなかった。一番上がった学年で4%である。	B	学力の向上は、学校としての第1目標だと考える。今年度の反省を生かし、今後の学習指導につなげてもらいたい。	診断シートの結果を見て、正答率の低い単元については、マッスルタイムなどを使って、指導をする。チャレンジタイムを充実させる。
	読書科の更なる充実	・学校図書館の整備・活用の推進や探求的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探求的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	調べる学習コンクール全員出品 学校司書による学習支援 全学級1回以上 「おすすめの本」読破	実施率100% 保護者肯定的評価80% 児童肯定的評価80%	A	B	調べる学習コンクールへ全員出品できた。学校図書館司書による学習支援を行うことができた。学校図書館の整備をすすめることができた。絵本の図書館を整備していく。	A	読書の習慣づけは大切。中学校では、生徒が図書を活用することができていないと聞いている。小学生の頃から、読書に親しむ体験をできるだけさせてほしい。	「おすすめの本」は、読破するまではいかなかったが、感想欄により意欲は高まったので、引き続き指導を続ける。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育で学習カード活用 20分休み全員 校庭・体育館・屋上遊び 栄養教諭による授業 全学級	教員・児童意識調査80% 実施率100%	B	B	南タイムでは、体をたくさん動かしていた。学習カードは、児童の実態に応じて継続して使用している。休み時間の校庭・体育館・屋上遊びを実施することができた。	A	校庭・体育館・屋上、スペースを利用して活動できていると思う。	制限された活動が多かったため、コロナと共存する体育学習や運動遊びなどを、計画的に進めていく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	計画に基づく学習の実施 外部講師による体験 年2回 校内掲示の充実	実施率100% 児童肯定的評価80%	B	C	外部講師による授業を通して、オリパラ講演会や実技の紹介を可能な限り実施し、体験することができた。	C	コロナ禍のため、実施が難しい部分が多く大変だったと思う。東京2020大会に関わりなく、今後もバラスポーツの体験など実施できるようにしてもらいたい。	「東京2020」に向けて、引き続き児童の意識向上を図る。さらに大会の観戦の機会を学習にいかしていく。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語活動、外国語の専科教員とALTによる授業の実施 教材・教具の整備	児童肯定的評価80%	A	A	中学年の外国語活動および高学年の外国語の授業では、専科教員を配置し、実施することができた。教具の整備は継続して行っている。	A	専科教員を配置して授業を行うことができたのはとてもよかった。次年度以降も、継続できるように行くといいと思う。	現在の指導体制ができない場合を考慮し、担任のOJTを行って行く。必要な教具・教材の予算を計上していく。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチーム生活指導連絡協議会の活用	生活リズムウィーク学期始め・年3回 学校生活アンケート学期に1回 いじめ・不登校児童の情報共有(毎週金) SCの積極的活用、5年全員面談	実施率100% 保護者肯定的評価80%	B	A	早寝早起きの指導を行っているが、引き続き家庭の協力が必要である。いじめの件数は多いが、担任を中心に指導しその日のうちに解決している。不登校については、民生児童委員、関係機関・SCなどを活用し改善を目指す。	A	少しずつではあるが、児童側の意識も改善されているようなので、今後も継続してほしい。また、SNS等の使い方指導も継続して実施してほしい。民生委員としても、健全育成への協力をしていきたいと思う。	不登校について、学校内で情報を共有し、関連機関との連携し、対応策を考える。生活リズムは保護者への啓発活動を続ける。
	規範意識の向上 思いやりのある子の育成	「南小スタンダード生活編」～3つのあ「あいさつ・あつまり・あしまつ」～の組織的な共通実践  道徳教育の推進	月目標に位置づけ確実に指導 週目標ポスターに評価欄を設け毎週、学級で振り返りを実施。 ほかほか言葉週間学期1回 ソーシャルスキルトレーニング6月～2月	教員意識調査90% 児童肯定的評価80% 保護者肯定的評価85%	B	B	児童の中では、「あいさつ・あつまり・あしまつ」について習慣づることが多くあった。特に靴のあしまつはきれいに並べられるクラスが多くなった。道徳でのソーシャルスキルができておらず、日々の道徳教育の活動の中で指導している。	A	目に見える目標を設定するのは良い考えだと思う。靴箱の整理整頓が良くてよかった。今後も取り組んでいただきたい。	校内でのあいさつは育っているものの、旗振りの方々や来客者についてのあいさつを心がけるようにしていく。他についても質が高められるよう指導する。
働き方改革 組織力の向上	C4thの積極的な活用 会議の効率化 学年組織の強化、運営の充実	連絡事項は基本C4thの掲示板 職員会議を年間4回に削減 週1回の学年会でOJT、学年内で教科分担制実施、月2回の一斉退勤日	教員意識調査80% 実施率80%	B	B	C4thの掲示板を活用したことで会議や打ち合わせの効率化が図られた。働き方改革として職員会議を削減したことは有効であった。教科担任制も2学期後半から始められることができた。月2回の一斉退勤日も実施できた。	B	より効率が良く、高い成果を得られるように、工夫をして取り組んでほしい。	部会等各学年の決定事項を学年で共有していくことが必須である。重要なことはC4thの掲示板と書類での確認を行っていく。	